

# 四国地区



**西村浩子**

四国区代表

**和田浩二**

副代表

●主な活動団体（普及委員会関係）

- ・高知大学
- ・松山東雲女子大学
- ・阿波ビブリオバトルサポーター

## のろい普及がもたらす爆発力に期待！！

高知大学人文学部

中道 一心（四国地区）

[nakamichi.kazushi@gmail.com](mailto:nakamichi.kazushi@gmail.com)



### 1. わたしのビブリオバトルとの出会い

2010年ころ、1年生（大学では初年次と呼ぶ）教育を考える役回りになってしまった。大学生は自由に学び、遊び倒し、激しい恋愛を謳歌すれば良いと心底思っているが、仕事だから仕方がない。どんな問題があったのか？ 同僚たちの嘆きは、卒論執筆時に学生が伸び悩むことだった。その原因を調査手法の習得不足、論理展開する力、文献検索する力、文献読解力などに求めることができる。

わたしが所属する高知大学人文学部社会経済学科では、初年次は文献読解に焦点を当て、読書習慣の定着を促そうと取り組んでいる。いわゆる「フィールドワーク」はすっかり定着しているが、これまでの学者や評論家が何を明らかにしているのかを整理したうえで、自分が出かけたフィールドからどんな“something new”を発見したのかを提示できる学生が少ない（シャレにならんけど多くの研究者も！？）。そこで、初年次では読書への耐性づくりを目標にしている。読書習慣の定着をいかに図るのか？ 教育手法に明るい同僚の塩崎俊彦さんに面白い取り組みがないかを尋ねたら、ビブリオバトルを紹介してくれた。そこで、厚かましくも突然、谷口先生に連絡をとり、学部のFD（ファカルティ・ディベロップメント）でビブリオバトルについて講演いただいた。

ところで、読書習慣の定着のために何をしたのか？ 結局、わたしたちは1年生1学期（前期）に学生が3冊の新書を読むことにしている。ビブリオバトルを導入して、チャンプ本をみんなで読む方法もあったが、多様な教員が在籍する資源豊かな学科なので、教員が選んだ新書を学生が読んでいる。ザァーっと読む3冊ではなく、レポートも必須なので学生にとってはハードだが、「鉄は熱いうちに打て」を実践したのである。

その一方で、大学生の全国大会であるビブリオバトル首都決戦（今年から京都決戦）の予選会を2012年から高知大学で開催している。ここで出会った学生は、わたしが多分仲良くなならない、一見暗そう（なんだけど、実は僕なんかよりはっちゃけてる？いや、教育者としての表現は真面目）な学生たちだが、彼らが本を紹介し、懇親会で語っているときはニコニコと明るい！！これがなんとイイ！

しかし、こういう良さを知ったにもかかわらず、実は普及は遅々として進んでいなかった。2012年、13年の首都決戦の予選会を開いたり、ゼミでビブリオバトルをやった

り、少数の同僚が授業で取り入れてくれたりとホントに細々と活動していた程度であった。無理せず身の丈に合ったと言えば、聞こえはいいが、実際のところはなんにもしていないのに等しかったのではないかと反省する。

### 2. 好転する2014年

そんなのんびりとした普及活動に大きなうねりをもたらしてくれたのが高知県教育委員会からのビブリオバトル実演の打診だった。彼らは以下のような講習会を企画していた。

*子どもと本をつなぐ方々が多様な読書活動の手法を学び、各地域で協働し、多様な読書活動を推進するとともに、子どもの読書活動の基盤となる家庭における読書が、自主的・日常的な活動となることの重要性を県民に啓発するため、「高知県子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」を開催するにあたり、具体的な取組の一つとして、新しい読書活動である知的書評合戦『ビブリオバトル』を周知するために実演・紹介を行うこととしており、その出演者を選出するための講習会とする。*

この講習会では、まずわたしがルールやもたらされている効果を説明し、その後、大学生4名がバトラーとなり、そのバトルに対して、中学生、高校生、引率者が投票まで行う。そして、中学生・高校生がバトラーとなり、実際にミニ・ビブリオバトルを行い、チャンプ本を決定するまでを体験してみるというものであった。チャンプ本に選ばれたバトラーは、11月に開催される「高知県子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」で200名を超える聴衆を前にバトルを繰り広げるところまでレールがひかれており、第1回高知県中学・高校ビブリオバトル大会の予選会であったわけである。

これ以外にも、小学校の図書館司書の方々が地道に普及を広げてくださっている。わたしは会ったことも話したこともないはずなのに、なぜか着々と浸透させてくださっていて、ビブリオバトルが持つ魅力の大きさに感嘆している。また、商業ベースのもくろみもありそうだが、高知県内の「TSUTAYA」でも月に1度「本夜会」と題した定例会がスタートしている。

わたしは県内唯一の普及委員であるにもかかわらず、この体たらく。しかし、ひとりでガムシャラにやっても長続きしないことは目に見えていて、ビブリオバトルの魅力に吸い寄せられた方々のサポート役でもいいのかな。あわよくばあとから加わってくださった方にいろんなことをお任せしてけん引してほしいなと思っています。みんなが好きな感じにゆる〜く楽しんでやれる普及のモデルをつくれたらいいなあと夢想しています。

### 3. 2014年の活動記録

(1)「ビブリオバトル講習会」のサポート

主催：高知県教育委員会

日付：2014年8月30日

場所：高知県教育センター分館 大講義室 他

参加者：バトラー13名（中学生2名、高校生11名）

聴衆19名（高校生3名、引率者16名）

実演者4名（高知大学学生）

講師1名（中道：高知大学）

(2)「全国大学ビブリオバトル2014～京都決戦～高知予選会」の主催

主催：高知ビブリオバトル

日付：2014年11月12日

場所：高知大学朝倉キャンパス

参加者：発表者数8名（1回目3名、2回目5名）

観戦者数28名（1回目13名、2回目15名）

(3)「全国大学ビブリオバトル2014～京都決戦～愛媛・高知地区ブロック代表決定戦」

のサポート

主催：ビブリオバトル愛媛・高知ブロック実行委員会

日付：2014年11月22日

場所：松山東雲女子大学

(4)「高知県子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」のサポート

主催：高知県教育委員会

日付：2014年11月24日

場所：高知会館

主旨：読書関係者等のネットワークが地域を越えてつながり、県全域に広がることでネットワークの活性化を図る。あわせて読書関係者等が多様な読書活動の手法を体験し学ぶことにより、子どもの多様な読書活動を推進する。また、子どもの読書の意義や読書活動の基盤となる家庭における読書活動の重要性を県民に周知し、子どもの自主的な読書活動を推進する。

4. その他（活動の記録）

高知県香美市の香長小学校と舟入小学校でビブリオバトルへの取り組みが地元紙『高知新聞』に2014年12月18日に掲載されました。こども高知新聞欄での扱いでしたので、今後教育現場で徐々に普及していくのではないかと思います。記者とのやり取りのなかで変に教育の側面が強調されることによって、ビブリオバトルの「楽しさ」が失われることがないようにいつかはしない(!?)ポーズで出演しておきました。



出所：『高知新聞』2014年12月18日付を借用。



## 活動報告書

佐々木 奈三江 (四国地区)  
徳島大学附属図書館

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>



私は、徳島大学附属図書館で司書をしています。サービス部門を担当しており、授業補助やイベントを手掛ける中でビブリオバトルと出会い、現在は授業での活用と徳島県下でのビブリオバトル普及に向けて活動をしています。今年は次のような活動を行いました。

### ①「阿波ビブリオバトルサポーター」のサポーター

徳島大学の学生を中心とした団体「阿波ビブリオバトルサポーター」(以下阿波ビブリオ)のサポートをしています。阿波ビブリオは、毎月定例の団体内ビブリオバトルの他、大きなイベントとして「ビブリオバトル in 徳島 社会人×大学生」(徳島県立文学書道館と共催)「全国大学ビブリオバトル 2014～京都決戦」の地区予選(3回)、地区決戦の開催などを行いました。また、徳島市立図書館のYAボランティアに対するビブリオバトルのデモンストレーションや他の大学でのデモンストレーションなど、学外への普及活動も行っています。

私の仕事は各種事務手続きや広報のサポート、運営方法への助言などですが、学生の自主性を尊重しつつ、学生に遊んでもらいながら活動しています。



ビブリオバトル in 徳島 社会人×大学生



全国大学ビブリオバトル 2014～京都決戦～  
地区決戦

### ②大学で授業開講

ビブリオバトルは読書のきっかけになるほか、本を読み解く力やプレゼンテーション能力の向上、イベント企画による社会人基礎力養成、など、様々な教育的効果があります。それを大学の授業として活かさないかということで、以前から共同で授業を行っていた先生方とともに、ビブリオバトルを取り上げた授業を設計したところ、2014年度から大学の正式なカリキュラムとして開講することができました。それが、大学1～2年生向けの授業「読書コミュニケーションへのいざない」です。授業のねらいは「大学生活の中に読書活動を習慣化し、読書を通じた人との出会いによって読書のコミュニケーションを構築していくこと、多様な本との出会いにより教養を深め、多様な価値観にふれること」です。

この授業の特徴は「ビブリオバトル」というアウトプットのみではなく、インプットである「読書」に深く切り込んでいったことです。異分野の複数の先生が、講師となり、それぞれの専門を生かして、「本を読むこと」「本の読み方」を解説していきました。そしてもう一つの特徴は、講師陣が一番授業を楽しんでいる、ということ。その楽しい気持ちが伝染するのか、もともとの受講生の資質なのか、受講生は教員とも活発に交流し、個人的な本の貸し借りなんかもあったようです。

なお、この授業にはもう一つ、「徳島大学でのビブリオバトル普及」という狙いもありました。ということで、阿波ビブリオに授業でビブリオバトルのデモンストレーションをしてもらい、学生とも協働しながら授業をすすめました。すると、受講生が全国大学ビブリオバトル 2014の予選に出場したり、阿波ビブリオのメンバーに入ったり・・・、ということが起こり、目論み通り、じわじわと徳島大学にビブリオバトルを浸透させることに成功しつつあります。来年度以降も開講予定です。

詳しくは、徳島大学附属図書館のメルマガ「すだち」をご覧ください。パソコンやモバイルでも見ることはできますが、配信登録もお待ちしております！

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/>



平成 27 年 2 月 4 日 (水)  
授業の総括イベントとして、  
図書館内で1日限定のブック  
カフェ「B&C」をオープン。  
ビブリオバトルや茶話会など  
のイベントを行った。

### ③上記授業について発表

上記授業について、下記のとおり発表させていただきました。いずれの発表においても、授業方法やビブリオバトルの実施方法などについて活発な意見交換がありました。

### 活動報告書

#### ●第55回中国四国地区大学図書館研究集会 研究発表・実情報告

日時：平成26年10月9日（木）

場所：香川大学オーブスクエア多目的ホール

発表タイトル：教員連携・学生協働で創る授業～「読書コミュニケーションへのいざない」報告～

#### ●ビブリオバトルシンポジウム2014 ポスター発表

日時：平成26年12月13日（土）

場所：立命館大学・朱雀キャンパスホール

発表タイトル：ビブリオバトルの授業を創ろう！～徳島大学附属図書館の事例～

#### ●懇談会「徳島における若者読書文化の形成」～徳島大学総合科学部・地域交流プロジェクト「徳島における若者読書文化形成プロジェクトー地域と他大学連携によるビブリオバトル（知的書評合戦）の実践からー」の報告より～

日時：平成27年2月23日（月）

場所：徳島大学総合科学部一号館第一会議室

発表タイトル：大学図書館における読書啓発の取り組み

西村浩子（四国地区）  
松山東雲女子大学  
[hiro@shinonome.ac.jp](mailto:hiro@shinonome.ac.jp)



私は現在、松山東雲女子大学人文科学部心理子ども学科子ども専攻の教員をしています。専門は日本語史ですが、現代日本語や留学生の日本語教育にも関わっています。

ビブリオバトル歴は、まだ2年。2013年に愛媛県内で大学として初の予選会を松山東雲女子大学・短期大学図書館で開催。また、愛媛・高知ブロックとして、高知大学の中道一心先生とご一緒にブロック代表決定戦を開催しました（於松山東雲女子大学・短期大学図書館）。（このとき、ブロック代表決定戦でチャンプになった学生は、本学の学生だったのですが、「自分が直接質問に答えられる場でこそ、本の魅力を語りたい」と全国大会の切符を2位の方に譲りました。）

#### ●2014年度の活動

##### （1）講演「ビブリオバトルの贈り物」（西村浩子）

2014年5月13日「愛媛県高等学校教育研究会図書部会」にて講演。

前半は、ビブリオバトルについて、2014年までの状況と公式ルールの説明および、2013年にビブリオバトルを体験した学生（4年生）の体験談を披露。後半は、参加者が4人グループに分かれ、各グループでビブリオバトルを体験。各グループのチャンプを決定し、代表者数名にチャンプ本の紹介と体験した感想を披露していただいた。

参加された先生方は、ビブリオバトルの終了後、笑顔が会場いっぱいになり、目が輝いていた。学校でもやってみたいという感想をいただいた。また、副会長の先生の最後のご挨拶では、「ビブリオバトルの贈り物」という題名の中にある「贈る」とは、「気持ちのこもったものを相手に贈るときに使う言葉」であり、「ビブリオバトルは、『気持ちのこもった書評』である」という、素晴らしいまとめをいただいた。

##### （2）「全国高等学校ビブリオバトル2014 四国大会」の会場校として、運営を担当

2014年7月26日（土） 松山東雲女子大学

四国初の高校生のビブリオバトルとなった今回の大会には愛媛県・香川県の16名の本好きな高校生が参加し、愛媛県の新田青雲中等教育学校の北尾奈央さんが紹介し



た『恋文の技術』がチャンプ本に選ばれた。北尾さんは2015年1月11日(日)に東京のよみうり大手町ホールで開催された「決勝大会(全国大会)」で、3位に輝いた。

大会の運営は、ゼミ活動の一環として、活字文化推進会議事務局の方々と一緒に、3年生・4年生計13名が、受付・案内・司会等を担当した。高校生の素晴らしい発表を聞~~く~~くことや運営スタッフとして働くことで、新たな学びや自分自身の振り返りのる大変良い機会となった。



学生が作った、四国大会の  
マスコットキャラクター：ビブリン



大会の様子



4名の決勝戦バトルー(右から2番目が代表に輝いた北尾奈央子さん)

(3) 「全国大学ビブリオバトル2014」の愛媛・高知ブロック代表決定戦を開催

2014年11月22日(土) 松山東雲女子大学・短期大学図書館  
高知大学から2名、愛媛大学から2名、松山東雲女子大学から2名、計6名で開催。

チャンプ本は、愛媛大学法文学部の <sup>あゆみ</sup>山根麻友美さんが紹介した『向日葵の咲かない夏』が選ばれ、京都決戦に出場した。

大会運営は、高校生大会に引き続き、ゼミ活動の一環で3年生が担当した。今回の参加者の中に赤ちゃんを連れた人がおり、託児場所・託児者の準備も今後必要である。

(4) 「ビブリオバトル・シンポジウム2014」でのポスター発表

2014年12月13日(土) 立命館大学・朱雀キャンパス

2013年度からゼミ活動の一環として、県内予選会やブロック代表決定戦の大会運営について、よりよい運営の仕方を「課題」として取り組んできたが、その成果を「ビブリオバトルを活用した課題解決型学習」と題して、ポスター発表を行った。